

中学校 保健体育科 学習指導案

指導者 世羅 晶子

日 時	令和6年11月29日(金) 第2限 10:35～11:25
場 所	グラウンド (雨天時は体育館)
学年・組	中学校2年女子30人(A・B・C組 各10名)
単 元	ゴール型(ハンドボール)
目 標	1. ハンドボールの特性を理解するとともに、基本的な個人的技能や集団的技能を習得し、ゲームの中で活かすことができる。(知識及び技能) 2. 個人やチームの課題を的確に分析し、課題解決に向けた活動を工夫することができる。(思考力、判断力、表現力等) 3. 安全に留意しながら、積極的に取り組むとともに、仲間と協力して学習活動やゲームができる。(学びに向かう力、人間性等)

指導計画(全10時間)

第一次	オリエンテーション	1時間
第二次	個人的技能の習得を図る	2時間
第三次	個人的技能の向上・集団的技能の習得を図る	7時間 (本時4/7)

授業について

ハンドボールの特性として次の2つがあげられる。1つはボールを持って3歩まで動くことが許されること、もう1つは、ボールを片手で保持できることである。そのため、パスやシュートなどボールの操作が比較的容易であり、3歩までのステップを利用することで多様な攻撃を展開しやすいのではないかと考えている。そこで本単元では、「攻撃において、シュートチャンスをつくる動きを考え、シュートを狙ったプレーを継続すること」を目標とする。学習内容として、個人的技能はパスやステップを使ったシュート、1対1の攻防、集団的技能は、防御の裏のスペースなどオープンスペースへ走り込み、パスを受けてシュートしたり、オープンスペースへ走り込むプレーヤーに、タイミングよくパスしたりするなど、空間とタイミングの認識の形成を目指す。そして、フリーの状態で相手よりゴールに近いところでシュートできるよう、まわりの動きに対応しながらプレーしていくことをねらっている。ゲームにおけるチームの課題発見のために、どのように分析を進めるかについて、ICTを利活用したり、同じチームの人が交代でゲームを観察したりするなど、最適な方法を探っていく。また、シュートチャンスを広げるために、何を考えるか振り返りの視点も提示しながら、自分たちの課題を発見し、解決策を考えていく授業を展開する。今回の授業で使用するボールは片手で保持しやすい1号球を使用する。また、ゲームにおいて、セットオフフェンスをしやすくするために、ハーフコートで行い、時間制で攻防のチェンジをする。

題 目 シュートチャンスを広げるために、自分たちのゲームの課題を把握し、その課題解決に向けて、チャレンジしたいことを明確にしてゲームに活かす。

本時の目標

1. 攻撃において、シュートチャンスをつくる動きを考え、シュートを狙ったプレーを継続することができる。(知識及び技能)
2. 課題に対して、チームでの気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。(思考力、判断力、表現力等)

本時の評価規準（観点／方法）

1. 攻撃において、シュートチャンスをつくる動きを考え、シュートする機会を増やすことができる。(知識・技能／活動観察)
2. 課題に対して、チームでの気づきや発見を共有し合い、協力して活動することができる。(思考・判断・表現／活動観察・ワークシート)

本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
【導入】 出欠点呼 本時の説明 準備運動	○集合 ○本時の学習内容を把握し、課題を確認する ○準備運動	・出欠確認を行い、健康状態を把握する。 ・本時の学習課題が理解できているか確認する。
仲間と協力してシュートチャンスを広げるため、攻撃面での課題を確認し、ゲームを通して解決しよう。		
【展開】 チームの攻撃面の課題の確認 課題解決のための活動 ゲーム	○前時のゲームにおけるチームの課題を確認する ○シュートチャンスを広げるために課題を意識しながら活動する オープンスペースへの走り込みとパスのタイミングなど ・2対1の攻防 ・2対2の攻防 ・3対3の攻防 ○ハーフコートでのゲーム ・課題を意識しながらゲームに取り組む ○ゲームの振り返り ・チームの課題がどの程度解決されゲームに活かされたか	・チームで話し合いながら、課題を把握しようとしているか確認する。 ・課題意識を持って積極的に取り組むことができているか観察する。 ・走りながらキャッチし、ステップをしてシュートしようとしているか。 ・オープンスペースはどこか、どこに動いたらパスがもらえるかを考えてプレーしているか。 ・チームの攻撃面での課題を解決しようとしているか観察し、声かけを行う。 ・どのような視点で振り返りをしていいるか、観察する。
【まとめ】 学習のまとめ 片づけ	○本時の学習の振り返り ○次時の学習の確認 ○片づけ	・本日の学習課題が達成できたかを確認する。 ・次時の学習の確認をする。
備考		

実践上の留意点

1. 授業説明

ハンドボールの攻撃でシュートチャンスを広げるために、何を考えるか振り返りの視点も提示しながら、自分たちの課題を発見し、解決策を考えていく授業を展開していった。

ゲームの振り返りの視点は次の通りである。ゴール前が空いていたか、シュートを打つことができたか、空いているスペースに走りこむことができたか、空いているスペースに走りこむプレイヤーにタイミングよくパスができたか、サポートの動きができたか、動き続けることができたか、フロアバランスを考えて広くスペースを使うことができたかである。

授業展開の流れについては、まず個人的技能であるステップとシュートから取り組み、キャッチボール、ステップシュート、ジャンプシュートを行った。また、ステップを使って、ゴールに近づいてからシュートすることを目指した。課題としてあげられるのが、スローイングとキャッチングで、ボールをキャッチし止まっただのスローはできるが、走りながらキャッチし、ステップしてのスロー（パスやシュート）が難しいことである。次に1対1の攻防を行い、ステップを使って相手を抜き去ること、相手よりゴールに近いところでシュートすること、相手がいない空間でシュートすることを課題とした。集団的技能である2対1、3対2、2対2、3対3の攻防では、オーバーナンバーの状況をつくって攻めるよう、1対0のノーマークの状況をつくり相手がいない空間でシュートすることを課題とした。ゲームは、単元を通してハーフコートで行った。その理由は、攻めと守りの時間を分けることで、状況把握がしやすく「今何をすればよいか」がより明確になり、セットオフェンスの状況をつくりやすいためである。日々の授業の振り返りについては、ロイロノートを使用し、授業後に授業やゲームの振り返りを記入して、提出箱に提出させた。また、共有のノートに自分たちのゲームの動画を入れ、生徒がいつでも見て振り返ることができるようにした。

本時の授業では、前時のグループ学習で自分たちのゲームを振り返って、シュートチャンスを広げるにはどうするかをロイロノートのシートにまとめたものから選び、課題を明確にして活動を行った。ゲームにおいて、ゴールエリアライン付近にかたまっただの攻防が多いため、高い位置からスタートし、ディフェンスから離れたところでパス回しができるように、めやすとしてラインを引いておこなったが、すぐに効果は表れなかった。引き続き、自分たちのプレーを客観的に見て課題を把握し、解決策を考え実践していくという流れを大切にしていきたい。

2. 研究協議より

・オフェンスでの『組み立てー崩しーシュート』での「崩し」がうまくいったかを理解させるのは難しいことだと思うが、崩しを理解させるためにどうしたのかという質問に対して、1対0のノーマークの状況をつくるために、1対1でフェイントをかけたたりクロスに動いたりして、ディフェンスを動かすことによって、スペースが生まれることを、学習活動の中で確認していったと説明した。

・「シュートチャンスをつくる動きを考える」時のゴールキーパーの存在について、崩してシュートを打ってもキーパーに止められたり、ゴールの上の方を狙ってシュートが入らなかったりすることがあったため、キーパーをつけず、ハードル等を置いて、ゴールの下の方を狙うようにする方法もあるという提案があった。また、シュートチャンスを広げるために、オーバーナンバーをつくって攻める他に、ディフェンスに制限をかけたり、オフェンスしか入れないゾーンをつくったりして攻めやすくするしかけの工夫の提案があった。

・ハンドボールの教材の価値について、走跳投のすべての要素があり、ハンドボールは他の球技より投げやすい、シュートも得点しやすいため達成感を得られ学習意欲が湧きやすく、ボールをもたない時の動きや状況判断がしやすい競技であるため、もっと触れる機会を増やしていきたいという意見が出された。